No.66
令和８年１０月号
【4・7・10・1月発行】

図書館だより

発行：入間市立図書館
本館　04-2964-2415
西武　04-2932-2411
金子　04-2936-1811
藤沢　04-2966-8080

図書館ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　https://lib.city.iruma.saitama.jp/

読書の秋、芸術の秋……折り紙、いかがですか？





「折り紙」と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべるでしょうか。おそらく、多くの方はまず折り鶴を思い浮かべることと思います。

では、その折り紙を最後に折ったのはいつでしょうか。こどもの頃でしょうか、それとも子育て中でしょうか。家族や知人の快気を願い、千羽鶴を折られた方や、日頃お仕事の中で折られている方もいらっしゃるかもしれません。

日本で暮らす私たちにとって大変馴染み深く、一度も触れたことがないという人はおそらくいないであろう「折り紙」。海外においても、「ＯＲＩＧＡＭＩ」という日本語の響きそのままで知られており、立派な日本の文化のひとつと言えるでしょう。

「そうは言っても、こどもやお年寄りが遊ぶものでしょ？」いえいえ、そんなことはありません。確かに保育施設やデイサービスなどで利用されるイメージが強いかもしれませんが、大人でも苦戦するほど複雑な折り紙は数多く存在します。書籍も多数出版されていますし、入間市立図書館でも様々な資料を所蔵しています。本館の児童コーナーをご覧になったことがある方は、館内の装飾も折り紙で作られたものが多くあることにお気づきかもしれませんね。



季節は秋。図書館らしく読書の秋を全面に押し出すのもよいところですが、今回はあえて芸術の秋として、「折り紙」をおすすめしたいと思います。芸術というと絵や音楽を想像しがちですが、なかなか手を出しづらいのが正直なところ。しかし、折り紙は今や百円ショップでも手に入り、それどころか、単純な単色の折り紙以外にも多様な商品展開がされているほど。しかも一度きりではなく、紙がなくなるまで楽しめる……。



何を折ればいいか困ってしまうという方は、ぜひ図書館の資料をご利用ください。基本の折り紙から、花や生き物、季節の飾りや行事にちなんだものまで、様々な折り紙を紹介しています。初心者の方は児童書から、手先の器用さに自信のある方は一般書からお選びいただけますので、きっとご自身に合った難易度の折り紙が楽しめることでしょう。児童書からお選びいただく場合は背表紙のラベルが「７５４」のもの、一般書からお選びいただく場合は「７５４．９」のものをご覧ください。毎月発行の折り紙雑誌『おりがみ』もあります。資料をお探しの際は、図書館員にいつでもお気軽にお尋ねください。

みなさまのご利用をお待ちしております。



図書館員おすすめの本

『おいしく折ろう食育おりがみ　かんたん!楽しい!食べものおりがみ集』
西田　良子／製作・著　全国学校給食協会　＜754.9　ニ＞



『ピコロのいっしょにおりがみ　大人といっしょに楽しめる季節のおりがみ』
朝日　勇／案・指導　学研教育出版　＜754＞

『おりがみ』No.542（2020.10月／日本折紙協会　より

「ふくろう」p22-23



「魔女」p14-15



「ネコ」p24-26



前ページの装飾に使用した折り紙です。ハロウィンにちなんだものを選びました。他にもたくさんの折り方が載っていますので、ぜひ読んでみてください。

『おりがみ』No.613（2026.10月号／日本折紙協会　より

「おばけ（ゆうれい）」p32-33



「ジャック・オー・ランタン」p20-21



図書館員
おすすめの本

『きれい、すてき。四季の折り紙　飾って楽しむ年中行事の折り紙』
小林　一夫／監修　廣済堂あかつき　＜754.9　キ＞

『折り紙キャッツ&ドッグスプレミアム』
山口　真／著　ソシム　＜754.9　ヤ＞



読み聞かせボランティアグループの広場



図書館で活動している、読み聞かせボランティアグループのどんぐり（本館）・かざぐるま（西武分館）・おはなし円（まどか）（西武分館）・茶の花（金子分館）・トトロ（藤沢分館）より、最新情報をお届けします。

どんぐり　6月定例会では、図書館職員からの新刊紹介があり、早速こども達に聞かせました。「冬のおたのしみ会」では4月に入った新メンバー4人も活躍します。昔話“こぶじいさま”のペープサートを行う予定です。ぜひ足を運んでください。待っています。

かざぐるま　7月の「ちょっとこわーいおはなし会」で、パネルシアター「七ひきのこやぎ」をやりました。見ていたこども達からは「ドアを開けちゃだめ！」、「こわくない！」などの声がありました。うれしい！！　他に絵本『こわーいはなし』（せな　けいこ／作・絵　鈴木出版）など。いかがでしたでしょうか？次回12月の「冬のおたのしみ会」に向けて準備中です。お楽しみに。

おはなし円（まどか）　最近、お話しを上手に聞いてくれるこども達（大人も）がふえてきたように感じます。「王子さまの耳はロバの耳～」と歌うようにくり返すと、それに合わせて目が笑っていたり……。引き込まれて聞いてくれると話す方もうまく話せていっしょに満ちたりた時間が過ごせます。いつも来てくれてありがとう。
毎月第1土曜日10時30分～　西武分館にてお待ちしています。

茶の花　「夏のおたのしみ会」では、大勢の参加者を得て大型絵本や紙・布芝居を上演しました。みんなで一緒にワクワクしたり、共感したり……。そこにあたたかいコミュニケーションが生まれていました。通常のおはなし会に加えて、「冬のおたのしみ会」もあります。みんなで絵本や紙・布芝居の時間を楽しみませんか。

トトロ　おはなし会が始まる前の緊張ほぐしや、途中でちょっとひと息入れたい時に「手遊び」を入れます。昔から伝わるものもあれば、創作手遊びを新たに覚えて披露することもあり、工夫を凝らして楽しい時間を演出しています。大人にとっても頭の体操になるようです。

大人のためのBookガイド

～図書館職員のおすすめ本を紹介します～



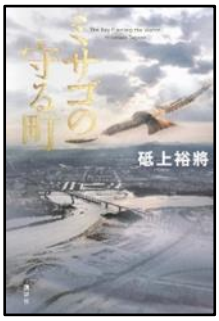
『妖怪の教科書　ルーツを知ればもっと好きになる』
伊藤　慎吾／監修　ナツメ社　≪388.1／ヨ≫

　こちらの本は、日本各地に伝わる不思議な妖怪たちの世界をわかりやすく紹介する入門書です。河童や天狗、ぬりかべなどおなじみの妖怪から、地域に根付いた珍しい妖怪まで幅広く掲載されています。妖怪が生まれた背景や伝承、暮らしとの関わりを学びながら、日本の歴史や文化にも親しめます。イラストや解説が充実しており、楽しく読み進められる1冊。妖怪の魅力と奥深さに触れられる、発見いっぱいの教科書です。

『ナマケモノは意外と早起き』
遠藤　求／著　築地書館　≪481.3／エ≫



　のんびり屋のイメージが強いナマケモノ。でも実は、私たちが知らない意外な一面をたくさん持っているのです。本書は、ナマケモノをはじめとする動物たちの驚きの生態や習性を、分かりやすく楽しく紹介する1冊です。「えっ、本当に？」と思わず声が出るような発見が満載。動物好きのこどもから大人まで、読めば生きものを見る目が少し変わる、そんな知的好奇心をくすぐる内容となっていますので興味を持たれた方はぜひ手に取ってみてください。



『ミサゴの守る町　The Ray Piercing the Water』
砥上 裕將／著　講談社　≪トガミ≫

「こちら、119番。火事ですか、救急ですか」
　ミサゴ（魚鷹）が空を舞う瑞乃町。この町は5年前に未曾有の大水害に見舞われ、未だに多くの傷跡を残している。この町で生まれ育った伝説の消防士・秋月龍朗は、目の前の義父母を救うことができなかった後悔から、水恐怖症を発症していた。今は現場を引退し指令室勤務となっている。
　ある日、5年前と全く同じ形をした線状降水帯が町の南方に発生した。再び迫りくる大水害。どうする秋月？　今度は町を家族を守り切れるのか？『龍の守る町』の続編です。

『人はなぜラブレターを書くのか』
石井 裕也／脚本　黒住光／著　リトルモア　≪クロズ≫



「富久信介様。ふと思い出して、お手紙を書いています。突然、すみません。24年前のことです」
　あることがきっかけで、初恋の人へ24年越しのラブレターを書いた寺田ナズナ。けれど、当時告げられなかった思いと、今伝えたい思いを乗せた手紙は、ためらうナズナによって投函されないまま。しかし偶然に偶然が重なり、手紙はナズナの知らぬ間に投函され――？
　現在と過去を行き来しながら、時を超えて全てが繋がる物語。今年公開された同タイトル映画のノベライズです。



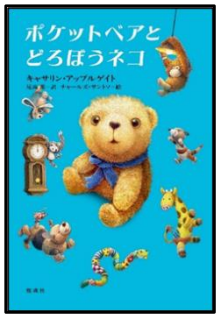
新着資料もたくさんあります。各館の新着コーナーをご覧ください！
新刊だけでなく、寄贈でいただいた資料なども並びます。



子ども向けBookガイド

～図書館職員のおすすめ本を紹介します～





『ポケットベアとどろぼうネコ』≪アツプ≫
キャサリン・アップルゲイト／作　チャールズ・サントソ／絵　尾高 薫／訳　偕成社

持ち主のいないおもちゃをひろって＜セカンドチャンス＞にとどけている猫のゼファリーナ。ある日、ゴミ箱から古いクマのぬいぐるみをひろいます。“ベアワン”と名づけられたクマは、おもちゃたちのリーダー“ポケットベア”たちの仲間となり友情を育みます。ところが、ベアワンがさらわれてしまい……。猫とおもちゃたちのやりとりが心をあたたかくしてくれる物語です。

『よるのはくあき』≪ひ1≫
かわさき しゅんいち／作・絵　木村 由莉／監修　PHP研究所



くらい夜の森で、ちいさなケモノが目をさまします。ここは、きょうりゅうたちのすむ“白亜紀”のせかい。おそろしい大きなきょうりゅうたちがねむっている間に、ケモノは食べ物をさがしに走りだします。

夜の森の静けさと、そこに眠る恐竜たちの迫力を楽しめる1冊です。夜に活動する生き物にも注目しながら、白亜紀の森の世界をそっとのぞいてみませんか？



『こんなにかわった！やさいくだもの むかし・いま』≪626≫
ほりかわ あきな／著　農業・食品産業技術総合研究機構／監修　講談社

わたしたちがいつも食べている野菜やくだものは、昔から今と同じかたちだったのでしょうか？ この本では、野菜やくだものの昔と今のすがたを写真でくらべながら、その変化をわかりやすく読みとくことができます。形や大きさ、中身の様子をじっくり見てみると、意外な発見があるかもしれません。身近な食べものを入り口に、わくわくするような探究のきっかけをくれる1冊です。

ティーンズ

『一生遊べる定番ボードゲーム50』≪Y798 イ≫
坂本 犬之介、オフィス新大陸／著　新紀元社



今、ボードゲームは、専門店やカフェができるなど人気の娯楽となりました。この本は、家族や友人と楽しみたいけれど、種類が多くてどれを選んだらいいかわからないという人のために、わかりやすくルールを説明し、魅力をまとめた本です。時代を超えて遊ばれ続ける名作から近年の話題作まで、厳選された50の定番ゲームが紹介されています。

ワイワイ系、思考系、協力系などにジャンル分けされたゲームで、楽しい時間を過ごせること間違いなし！